



2026
NO 66

BUNKA FASHION COLLEGE

SUMIRE KAI

文化服装学院 すみれ会 (同窓会) すみれ会報



文化服装学院 すみれ会 (同窓会) すみれ会報

CONTENTS

- 01 すみれ会会長あいさつ
- 02 すみれ会名誉会長インタビュー
- 04 すみれ会の活動
- 08 卒業生の紹介
- 10 文化服装学院の今
- 16 INFORMATION
 - 会計報告／会員手続きについて／
 - SNSの紹介／すみれ会会員特典

すみれ会会長あいさつ

Message

変化の時代に挑む、ファッションビジネスの未来

皆さま、こんにちは。

2026年のすみれ会会報誌をお届けできますことを、心よりうれしく思います。

現在、ファッション業界は大きな転換期を迎えています。原材料費や燃料費の高騰による物価上昇、消費行動の変化、そしてデジタル化の急速な進展など、これまでの常識が通用しない時代となり、新たな流通やビジネスの形が次々と生まれています。

また、安い価格で衣料品が作れるようになり、かつてないほど供給過多の傾向がみられます。それにより洋服そのものの価値が低くなったように感じます。以前のように、長く大切に使う「財産的な価値を持つもの」から、手軽に買い替える「消耗品」として扱われる傾向が強まり、それに伴って価格競争も激しくなっています。

だからこそ、これからのファッションにおいて重要なのは、商品にどのような付加価値を生み出し、その価値をどのように消費者へ伝えていくかということです。単に良いものを作るだけではなく、ものづくりに込められた想いや技術、背景を発信し、高い感度にかに共感していただくかが求められる時代になっています。

かつては文章や紙媒体を通じて商品の魅力を伝えることが中心でしたが、現在ではSNSやWebサイト、映像コンテンツなど、さまざまな発信手段があります。オンライン販売の強化、デジタルを活用したプロモーション、バーチャルとリアルを融合させた新たな取り組みなど、時代に合わせた挑戦が必要です。

一方で、どれだけ時代や技術が変化しても、ファッションの根底にある「感性」や「ものづくりへの情熱」の価値が失われることはありません。今、日本のファッ

ションを学びたいという若者たちが世界中から日本へ集まっています。彼らは単に流行を追い求めているのではなく、日本独自の美意識や職人技、言葉では表現しきれない感性を学ぼうと、真摯な姿勢で向き合っています。

その姿に触れるたび、私たち自身も初心を思い出し、「なぜファッションを志したのか」「なぜ創ることに心を動かされたのか」という原点に立ち返る機会をいただいています。

私たちすみれ会は、これまで培ってきた経験や技術、そしてファッションへの情熱を次の世代へとつなげていくことを大切な役割だと考えています。現場でのものづくりを支え、新しいファッションを生み出す人材が自由に挑戦できる環境を整え、未来のファッション業界を担う人たちが力強く羽ばたける土壌を築いていきたいと思っています。

変化の激しい時代だからこそ、過去から受け継いできた価値を大切にしながら、新しい可能性へ挑戦し続けることが必要です。

皆さまのご理解とご支援をいただきながら、これからもファッションの未来に向けて歩み続けてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



佐藤 正樹氏

すみれ会会長

佐藤繊維株式会社 代表取締役

すみれ会名誉会長インタビュー

Interview

個性を生かした学びを希望につなげ、学生とともに一丸となって挑戦し続ける

学生と向き合い、伝統に安住することなく新しい挑戦を続ける文化服装学院。この一年に感じた手応えと、就任10年目を迎えた今、これまでの歩みを振り返りながら、文化服装学院への思いを相原 幸子学院長に伺います。

—— この一年を振り返り、特に力を入れてきたことや、手応えを感じていることを教えてください。

現在の学生総数は3,385名、うち留学生は930名。34の国と地域から多様な学生が集い、これまで以上に活気にあふれています。文化学園全体にも通じることですが、文化服装学院が大切にしているのは、「学生一人ひとりが満足できる学校」になることです。それぞれの学ぶ意欲を希望につなげられるような教育をしていきたいと考えています。

2024年度の後期から続けている「コンテスト対策ゼミ」も、着実に成果が見えてきました。コンテストごとにデザイン画の描き方やコンセプトの組み立て方など、応募に必要な指導を行っています。特に、自分が何を好きなのかを知ることを大切にしており、学科やクラスを超えて、同じ目標を持つ学生が集まることにも大きな意味があります。互いの考えを共有し、「一緒に頑張ろう」と刺激し合う姿が見られるようになりました。

中でも効果を感じているのは、受賞経験のある学生が、自身の体験を後輩たちに伝えてくれることです。応募に向けてどのように考え、準備したのか。受賞後には企業や団体から作品の貸し出しを依頼されるなど、どのような機会が生まれたのか。そうした実感のこもった言

葉は、挑戦する学生たちの大きな励みになります。

また、楽天ファッションウィークの関連イベント、学生選抜コレクション「individual」も回を重ねるごとに充実してきました。説明会には多くの有志が集まり、自ら一步を踏み出す学生が増えています。挑戦することが一部の学生だけのものではなく、校内に少しずつ根づいてきたことに、手応えを感じています。

—— 34の国と地域から留学生が集まる中で、現在の学生たちにどのような魅力や可能性を感じていますか？

留学生が多い分、言葉の壁などから、先生方には指導の工夫やきめ細かなサポートが求められる場面もあります。ただ、留学生には授業を理解するための一定の日本語力が定められており、学院長賞のプレゼンテーションなどでも、しっかり説明し、質問にも答えられる。そうした姿を見ていると、日々の教育が一人ひとりの力になっていることを実感します。また、これだけ多くの留学生がいることは、文化服装学院で学ぶすべての学生にとって、大きなチャンスでもあります。今は費用の面でも、海外留学へのハードルが高くなっていますが、文化服装学院にしながら、さまざまな国の友人と出会い、異なる文化や価値観に触れることができる。すみれ会では、創立100周年を機に「すみれ会海外留学サポート奨学金」を設け、グローバルに活躍する意志を持つ学生や卒業生を対象に、海外留学支援金として、最大150万円を給付してきました。そのため選考では、現地で学ぶ上で必要な英語力も確認しています。学生には、校内にい

ながら国際的な環境に身を置けることを、ぜひ積極的に生かしてもらいたいですね。

そして、今の学生たちは、とても明るくフレンドリーです。学院長賞のプレゼンテーションで出会った学生が、新宿駅で遠くから手を振ってくれたり、廊下や食堂で会うと「写真を撮りましょう」と声をかけてくれたりします。入学式やドレスコードの日には、思い思いにおしゃれをしてくる姿からも、本当にファッションが好きなのだと伝わってきます。流行しているものを追うのではなく、自分が好きなものを、自分らしく着ている。そこが、今の学生たちの一番の魅力ではないでしょうか。

もちろん、全員が同じ方向を目指す必要はありません。人より優れたところや、自分が本当に好きなものを見つけ、それを個性として伸ばしていくことが大切です。そのために、文化服装学院にはさまざまな選択肢があります。自分の強みを見つける場所になればと思っています。

—— 卒業生の活躍や、すみれ会を通じたつながりを、どのように感じていらっしゃいますか？

卒業生は本当にさまざまな場所で活躍しています。デザイナーやアパレル業界だけではなく、舞台や音響の仕事、ショーのコーディネート、企業や飲食店の経営、絵本作家など、その仕事は実に多彩です。特別講義のために学校へ戻り、学生時代の経験を後輩たちに惜しみなく伝えてくださる方もいます。学んだことを自分の仕事へつなげ、さらに次の世代へ返してくださることを、ありがたく感じています。

先日、42年ぶりに再会した卒業生も、文化で学んだ技術が今も仕事に生きていて話してくれました。卒業後はオンワードでデザイナー職に携わり、退職した現在も、病院などで使われる制服の採寸を依頼されるそうです。長年の経験から、一人ひとりに合うサイズを素早く見極められる。その技術が頼りにされ、今も声がかかると思いました。

世界的なデザイナーの活躍は、もちろんすばらしいことです。一方で、文化服装学院で身につけた技術を日々の仕事や暮らしの中で生かし、自信を持って人生を楽しんでいる卒業生も大勢います。卒業後、何十年経っても人の役に立つ技術を身につけられることは、文化服装学院の大きな特徴だと思います。

—— 学院長就任10年目を迎えた今、これまでを振り返り、心に残っていることを教えてください。

学院長に就任した当初、日々、目の前のことに向き合うだけで精一杯でした。

大きな転機のひとつは、コロナ禍での文化祭ファッションショーです。感染対策や運営上の不安から実施に

は慎重な意見もありました。しかし、学生時代は一度きり。何も経験できないまま卒業させたくないという思いから、先生方に自分の考えを伝え、協力を仰ぎながらショーを開催しました。学生たちが喜んでくれた姿を見て、実施してよかったと今も思っています。

創立100周年を迎える際には、ショーのあり方そのものを見直しました。それまでの先生主導の形から、学生が主体となり、自分たちが制作したいと思うデザインに、自ら手を挙げて参加する形へと変えたのです。最初は心配もありましたが、3年を経て、とてもいい形になってきました。その積み重ねは、文化学園服飾博物館で初開催となる「文化服装学院 文化祭ファッションショー展」として実を結びました。服飾の歴史を伝えてきた博物館で、学生たちの作品による展覧会を開催できたことは、大きな喜びでした。在校生や高校生にとっても次の目標になる。ここまで続けてきてよかったと、感無量でした。

人からどう見えるかは分かりませんが、「例年通り」にはしてこなかったという自負があります。伝統を守るだけに留まり、変化を避けていたら、今の活気にはつながらなかったと思います。学生たちが挑戦しているのですから、運営する側も、教える側も、同じように挑戦しなければなりません。先生方に支えられながら、これからも文化服装学院として挑戦を続けていきたいです。

—— 最後に、すみれ会会員の皆さまへメッセージをお願いします。

現在、卒業生は35万人を超え、大勢の方が世界で活躍されています。今年も、11月3日（火・祝）に「すみれ会同窓会パーティ」が文化服装学院にて開催されますので、ぜひ皆さまにお越しいただき、交流いただけたらと思っています。卒業後1年目の会員は毎年無料で招待されますが、今年は、昨年同様10年目の会員に加え、20年目、30年目といった節目を迎える会員も無料招待となりました。

文化服装学院を通じて出会った仲間がいるだけで、人生は楽しくなります。卒業してから何年経っていても、ぜひ気軽にすみれ会を活用してください。卒業生の皆さまと学校が力を合わせながら、文化服装学院らしいつながりを、これからも育てていけたらと思います。



相原 幸子先生
すみれ会名誉会長
文化服装学院学院長

すみれ会の活動

Sumire kai's Activities

文化祭(11月1日～3日)、 すみれ会関連イベントのご案内

11月1日(日)～3日(火・祝)の3日間、本年度の文化祭を開催いたします。毎年好評のファッションショーや作品展示など、学生の学びの成果が詰まった企画を多数用意しております。卒業生の皆さまも、ぜひご家族やご友人とともにお越しください。なお、詳細スケジュールは決定次第、公式サイトにて発表いたします。

すみれ会同窓会パーティ

今年も、卒業生同士が集い、交流を深める「すみれ会同窓会パーティ」を開催いたします。同じ学び舎で青春を過ごした仲間との再会、世代を超えた卒業生との新たな出会い、そして母校の近況に触れるひととき。懐かしい思い出話を花を咲かせながら、文化服装学院ならではのネットワークを広げていただける機会です。ぜひこの機会に母校へ足を運び、卒業生同士のつながりを深めていただければ幸いです。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時:2026年11月3日(火・祝)

受付:12時00分より

開会:12時30分 閉会:14時30分(予定)

会場:決定次第、公式サイトおよび

公式Instagramにてご案内いたします。

会費:3,000円(軽食付き)

※当日会場受付にて会費をお支払いください。

※すみれ会会員証をお持ちの方は受付にてご提示ください。



申込:左のQRコードまたは
下記申込フォームよりお申込みください。
当日のご参加も歓迎しております。

<https://forms.gle/9Kse3U5x6WXcLrx88>

無料ご招待のご案内

以下の会員の方は、会費無料でご参加いただけます。

1. 2026年3月卒業生
2. 卒業後10年目(2017年3月卒)、20年目(2007年3月卒)、30年目(1997年3月卒)など10年ごとの節目となる卒業生



すみれサロン

会員のみなさまが休憩所としてご利用できる「すみれサロン」を11月1日(日)～3日(火・祝)の10時～17時30分(3日は12時まで)で開室しております。飲み物とお菓子をご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

文化祭ファッションショー

C館エントランス受付にて、すみれ会会員証のご提示で観覧チケットをお渡しいたします。この観覧チケットは枚数に限りがあるため、配布終了となる場合もございますことをご了承ください。

卒業から10年、それぞれの現在地

文化服装学院を卒業して10年。学生時代に培った感性と経験を糧に、それぞれのフィールドで挑戦を続ける卒業生たち。現在の仕事や活動、そしてこれから描く未来についてご紹介します。

「GRINICHE」主宰

若生 隆人さん

(ファッション高度専門士科卒)



(右) ヴィンテージのディテールを再構築しデザインするグリニチェのアイテム。
(左) お店というよりはギャラリーのような佇まい。アイテムに物語が宿ります。

受け継がれてきたものの魅力を今のものづくりへ

古い服や道具には、その時代の空気や誰かが愛用してきた痕跡が残されています。ブランド「GRINICHE (グリニチェ)」を主宰する若生 隆人 (わこう・たかと) さんは、そうした古いものの魅力を見つけ、新たな価値へと変えていくのが仕事です。ヴィンテージ品の販売や買い付けをはじめ、ブランドの服づくり、衣装デザイン、OEM、店舗の内装や什器製作まで、活動は多岐にわたります。こうした幅広い活動へと至るまでには、いくつもの転機がありました。ファッション高度専門士科在学中に「神戸ファッションコンテスト2016」でグランプリを受賞し、英国へ留学。卒業後に立ち上げたブランドを一度畳み、古着店で販売や買い付けを学び直した経験も、現在につながっています。「友人と再現性のないデザインについて語り合った時間や、洋服の基礎を丁寧に学べる環境が今に生きています」と学生時代を振り返る若生さん。「在学生には、正しいとされるパターンやデザインを常に疑い、自身の創作と再現の塩梅を見極めてほしいです」。その言葉には、ものづくりと向き合ってきた実感がこもっています。

「Jake Amelie」デザイナー

文化服装学院 非常勤講師

中島 桃香さん

(ファッションテキスタイル科卒)



(右) 端革を使用して作られる可憐なアクセサリは神代植物公園とのコラボレーションアイテム。(左) ベーシックなデザインが魅力のバッグ。

革を染め、糸を織り。手仕事の喜びを伝えていく

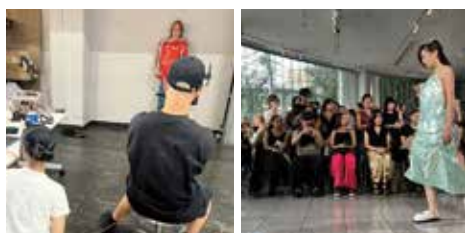
革を染め、オリジナルの刻印で模様を施す。中島 桃香 (なかじま・ももか) さんが手がける「Jake Amelie (ジェイク アメリ)」は、そんな手仕事から生まれるレザーグッズブランドです。ファッションテキスタイル科を卒業後、生地店勤務や車のシート縫製、鞆やジャケット、ドッググッズの製作・デザインなど、さまざまな現場で経験を重ねる中で革と出会い、2022年4月にブランドを立ち上げました。製作で残った端革も大切にしており、可憐な花のアクセサリーや神奈川県内の寺社仏閣のお守り、神代植物公園との共同企画では、花や熱帯植物を表現したチャームへと生まれ変わりました。現在は、テキスタイル科1年の「ウィービング基礎演習」を教える非常勤講師としても活動する中島さん。学生時代に恩師の長谷川先生から教わったのは、技術だけでなく、糸を織る楽しさでした。卒業後も自宅で織り続け、今では自身が、初めて織り機に触れる学生へその喜びを手渡しています。「ブランドと講師、二つの仕事から刺激を受けながら、ひとつひとつを大切に続けていく。それが私にとって、最も価値のある挑戦です!」。

フリーランスPR

ブランドディレクター

宮崎 翔太さん

(ファッションディレクター専攻卒)



(左) ルック撮影もブランドのイメージアップに欠かせない。(右) インビテーションを送った招待客で席が埋まると同時にショーがスタート。

ブランドに寄り添いながらその価値を高めていく

ブランドが大切にしていることや目指す姿を汲み取り、社会との接点をつくるPR。ファッションディレクター専攻を卒業した宮崎 翔太 (みやざき・しょうた) さんは、株式会社ニュートロンでセールスと社内PRを担当した後、松井智則社長との出会いをきっかけに株式会社ワンオーへ入社。約6年間にわたって多くのブランドのPRに携わり、ディレクターとして部門を統括した後、2023年4月に独立。現在はフリーランスとして活動しています。商品の貸し出しやメディアとの関係づくりをはじめ、PR施策の企画、ブランドイメージを形づくるコンテンツの制作、モデルや出演者の起用まで、ブランドの課題に応じてさまざまな役割を担う宮崎さん。目標は、「ブランドの社会的地位の向上」です。そのためには、決められた業務を一律に行うのではなく、「ブランドごとに個性や方向性を共有し、ともに考えることが重要」だと話します。外部の立場からチームの一員として継続的に伴走し、ブランドの価値や存在感を高めていく。そんな関わり方に、新たなPRの可能性を描いています。

すみれ会奨学金

「文化服装学院すみれ会奨学金」制度は、将来のファッション業界で活躍が期待される準会員（在学生）の支援を目的として、2016年度に創設されました。本制度は、会員の皆さまから寄せいただいたご寄付の一部も活用して実施しております。2026年度も成績優秀な在学生4名が奨学生として選拔され、学生たちの学修活動を支える一助となっております。また、4月6日に行われた入学式では、壇上において奨学金授与式を執り行いました。受給者たちの晴れやかな姿は、新入生の目にも将来の目標のひとつとして映ったことでしょう。あらためて会員の皆さまの温かいご支援に、心より御礼申し上げます。

〔2026年度すみれ会奨学金受給者〕

中村 虹輝さん

ファッション工科専門課程
アパレル技術科3年
バーチャルファッションコース

高江洲 愛賀さん

ファッション工科専門課程
アパレル
デザイン科3年

平山 葉子さん

ファッション工科専門課程
ファッション高度
専門士科4年

矢野川 あかねさん

ファッション工科専門課程
ファッション高度
専門士科4年



受賞風景



記念撮影

すみれ会海外留学サポート奨学金制度のご案内

すみれ会では、文化学園創立100周年を記念して、グローバルに活躍する志を持つ学生・卒業生を支援する「すみれ会海外留学サポート奨学金」制度を設立しました。本制度は、海外での学びや経験を通じて活躍の場を広げようとする方々を支援することを目的としており、2022年度より運営を開始しています。これまでに3名の奨学生を選出し、海外留学への挑戦を後押ししてきました。本制度は卒業生も応募可能で、2026年度の応募対象者は、2021年3月から2026年3月までに文化服装学院を卒業した方となります。応募要項は例年6月頃

に、すみれ会Webサイトの「NEWS」にて公開しております。海外留学を検討されている方は、ぜひご覧ください。海外での新たな挑戦を目指す皆さまのご応募をお待ちしております。

第1回(2022年) 奨学生 大槻 嘉己さん

(2022年度服飾専攻科オートクチュール専攻卒業)

第2回(2023年) 奨学生 藤井 安寿星さん

(2023年度ファッション高度専門士科卒業)

第3回(2025年) 奨学生 立澤 拓都さん

(2024年度ファッション高度専門士科卒業)

寄付のお願い

すみれ会では、将来のファッション業界を担う在校生への奨学金給付や、海外留学に挑戦する学生・卒業生への支援を行っております。これらの活動を継続・発展させるため、会員の皆さまをはじめ、法人・企業の皆さまからのご寄付をお願いしております。すみれ会の活動趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄付金の募集要項

〔寄付金の使途〕

- ・ 学業優秀で将来の活躍が期待される在校生への奨学金給付
- ・ 海外留学を希望する優秀な在校生および卒業生への留学支援

〔寄付金対象者〕

すみれ会員、法人・企業

〔寄付金の額〕

1口1,000円より

※口数にかかわらず、ありがたくお受けいたします。

※本寄付金は税制上の寄付金控除の対象とはなりません。

〔募金期間〕

募金期間は定めておりません。随時、ご寄付を受け付けております。

〔申込み方法〕

郵便振替にてお振り込みください。

■振込先：ゆうちょ銀行振替口座

■口座記号番号：00150-7-766997

■口座名称（漢字）：すみれ会寄付金口

■口座名称（カナ）：スミレカイキフキンゴチ

※ゆうちょ銀行以外から振り込まれる場合は下記となります。

■ゆうちょ銀行019（ゼロイチキュウ）支店

■当座預金口座番号 0766997

〔お問合せ先〕

文化服装学院すみれ会 TEL：03-3299-2073

<https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp>



すみれ会
Webサイト



文化服装学院
公式サイト

すみれ会 海外留学サポート奨学生の紹介

世界の名門校でデザインと独自の哲学を磨き、未来のファッション界を担う3人の奨学生たち。
それぞれの留学先から届いた、挑戦とこれからの展望をご紹介します

第1回 (2022年) 奨学生 大槻 嘉己さんより

大学院修了に向けて 広がる創作活動

第1回 (2022年) 奨学生としてイギリスへ留学した大槻 嘉己さんは、2026年6月現在、キングストン大学大学院 (Kingston University) MA Fashion コースに在籍し、修了に向けて集大成となる4体の卒業制作に全力で取り組んでいます。また、昨年に続き国際刺繍コンテスト「Hand & Lock 2026」にも挑戦しており、作品制作に力を注いでいます。さらに、6月にはフランス・パリで開催された素材見本市「Première Vision Blossom」において、若手アーティストを紹介する特別ブースで衣装作品や花装飾作品が展示されました。初めて一般公開した作品も多く、ハイブランドをはじめとする多くの業界関係者との交流の機会に恵まれたそうです。大学院での研究と創作活動を両立しながら着実に活躍の場を広げている大槻さん。大学院修了後は日本へ帰国し、自身の活動をさらに本格化させていく予定です。留学で培った経験を糧に、コスチュームデザインとアートフラワー表現を融合させた今後のさらなる活躍が期待されます。



Première Vision Blossom の様子

第2回 (2023年) 奨学生 藤井 安寿星さんより

イタリア留学で得た デザインへの新たな視点

第2回 (2023年) 奨学生としてイタリア・ローマのAccademia Costume & Moda メンズデザイン修士課程へ留学した藤井 安寿星さん。将来はヨーロッパのラグジュアリーブランドでメンズウェアデザイナーとして経験を積み、自身のブランドを立ち上げることを目標に学びを続けています。留学先では、日本とイタリアのデザイン教育の違いを強く実感したといいます。技術や完成度だけでなく、リサーチやコンセプト、作品に込めるストーリーが重視される教育に触れ、「ファッションはひとつの物語を形にする行為」という考え方に出会い、自身のデザインに対する価値観も大きく変化しました。在学中は「Brioni」や「HUGO」など有名ブランドとの企業連携プロジェクトに取り組みました。なかでもHUGOのプロジェクトでは、自身の提案がクリエイティブディレクターに高く評価され、サンプル制作作品に選出されました。さらに、憧れのブランド「SOSHLOTSUKI」のバリコレクションなどのショーにも携わり、自身のデザインが世界でも評価される可能性を感じる一方、自分だけの哲学や世界観をさらに磨くことの大切さにも気づいたといいます。今後は、卒業要件であるインターンシップを通じてラグジュアリーブランドへの就職を目指すとともに、自身のルーツであるマレーシアの文化を見つめ直す卒業制作に取り組みます。「今回の奨学金は安心して学業に専念するための大きな支えとなりました。貴重な機会を支えてくださったすみれ会の皆様に心より感謝申し上げます。皆様が誇りに思ってくださいようなデザイナーになれるよう、これからも努力を続けていきます」と感謝と今後への決意を語ってくれました。



HUGO プロジェクトのポートフォリオ

第3回 (2025年) 奨学生 立澤 拓都さんより

IFMで磨く デザイン哲学と世界への挑戦

第3回 (2025年) 奨学生としてフランスのInstitut Français de la Mode (IFM) への留学が決まった立澤 拓都さん。文化服装学院ファッション高度専門士科で4年間学び、「ファッションが大好き」という思いを原動力に、独自のデザイン哲学を追求してきました。デザインの根底には「脱構築」や「弁証法」の考え方があり、John Galliano から大きな影響を受けています。「人が着て美しいことはもちろん、ハンガーに掛けた姿も美しい服」を理想とし、服づくりに取り組んでいます。世界各国から優秀なデザイナーが集うIFMへの進学については、「正直とても怖いですが、同時に少しワクワクしています。自分の実力がどこまで通用するのか挑戦したい」と語ります。また、この貴重な留学の機会を支えてくれたすみれ会をはじめ、多くの方々への感謝の気持ちも述べていました。今後の目標は、「日本から世界へ新しいカルチャーを発信すること」。もちろんカルチャーにはファッション以外の力も必要ですが、それも踏まえて、自分の時代や自分が見てきたものを咀嚼し、新たな表現として創造することで、社会へとつなげていきたいと語ってくれました。



NFDT2023 パリファッションウィーク参加の様子

LVMH プライズ2025

グランプリ

SOSHIOTSUKI

大月 壮士さん

(アパレルデザイン科
メンズデザインコース 卒業)

世界中最高峰の賞「LVMH プライズ 2025」にて、大月壮士さんが見事グランプリを受賞。独自のアイデンティティと高い技術力が世界で認められた快挙であり、グローバルな舞台でのさらなる活躍に世界中から熱い視線が注がれています。



@ B.P.B Paris

世界へと挑み続ける卒業生たちの活躍

ブランドのさらなる飛躍を支援する国内外のファッションアワードで、
今、文化服装学院の卒業生たちが目覚ましい活躍を見せています。
日本を代表し、世界へと挑み続ける卒業生たちのさらなる活躍に大きな期待を込めて、
輝かしい受賞実績を一部ご紹介します。



@ B.P.B

2025年度 毎日ファッション大賞

大賞

AURALEE

岩井 良太さん

(II部服装科 卒業)

特別賞

minä perhonen

皆川 明さん

(II部服装科 卒業)

日本のファッション界で最も権威のある「毎日ファッション大賞」において、2025年度は大賞に岩井 良太さん、特別賞に皆川 明さんが受賞。素材へのこだわりや独自の世界観で時代を紡ぐお二人の功績が、改めて高く評価されました。

FASHION PRIZE OF TOKYO 2026



FASHION PRIZE OF TOKYO

YOKE 寺田 典夫さん

(服飾専攻科デザイン専攻 卒業)

国際的な活躍が期待されるブランドを支援する「FASHION PRIZE OF TOKYO 2026」を受賞し、さらなる海外展開への切符を手にした寺田 典夫さん。東京から世界へと発信される、洗練されたクリエイティビティに期待が高まります。

TOKYO FASHION AWARD 2026

mukcyen 木村 由佳さん

(アパレルデザイン科 卒業)

YOHEI OHNO 大野 陽平さん

(服飾専攻科デザイン専攻 卒業)

東京を拠点とするデザイナーが世界へ羽ばたくステップとなる「TOKYO FASHION AWARD 2026」。木村 由佳さんと2017年度に続き2回目の受賞となる大野 陽平さんの2名が受賞者に選ばれました。両ブランドのさらなる発展が期待されます。



@B.P.B



近藤 晃裕さんの作品



梅原 陸さんの作品



川部 竜雅さんの作品

次世代を担う若手デザイナーの登竜門「JFLF AWARD 2025」(日本服飾文化振興財団主催)のファイナリストに、近藤 晃裕さん、梅原 陸さん、川部 竜雅さんの3名が選出され、近藤 晃裕さんがJFLF 賞(助成対象)を、梅原 陸さんがJFLF 賞(助成制度特別選考対象者)を受賞されました。日本のファッション界に新しい風を吹き込む3人の躍進に注目が集まっています。

JFLF AWARD 2025

JFLF 賞(助成対象)

MIDTHINGS 近藤 晃裕さん

(アパレルデザイン科 卒業)

JFLF 賞

(助成制度特別選考対象者)

RIKU UMEHARA 梅原 陸さん

(アパレル技術科 卒業)

RYUGAKAWABE 川部 竜雅さん

(ファッション高度専門士科 卒業)

文化服装学院の今

未来のファッション業界を担う学生たちは、日々の学びを礎に、文化祭や企業とのコラボレーション、国内外のコンテストなど、多彩な活動に挑戦しています。文化服装学院の「今」をご紹介します。

文化服装学院文化祭

I部(昼間部) ファッションショー

ショーテーマは「Un:」“無題 (untitled)”。文化服装学院がこれまで積み重ねてきた熱意や熱量を、この「Un:」に託しました。そこに、学生が持つ“学生ならではの尖った感性”や“無限の可能性”といったエネルギーを重ね合わせ、その力を存分に表現したいという想いが込められています。ファッションショー「Un:」は、6つのシーンで構成され、全72体の作品が登場。陶磁器のような儚さと美しさを表現した【Porcelain】。民族と宇宙を融合させた【Pepu Bés】。パターンを四角形で構成した【This is all square.】。人間の心の機微と絡まりを現した【21917193】。戦争のない幸せな未来をイメージした【happy warriors】。そしてこのショーのためだけに制作された作品・シーンが大部分を占める中、在校生のコンテスト選出作品や各学科と企業とのコラボレーション作品を集結したシーン【ICONIQ STAR】を披露しました。また、2025年のファッションショースペシャルブックは雑誌『装苑』とのコラボレーションが実現し、スペシャルブックのカバーモデルには俳優、モデル、アーティストのSUMIRE(佐藤 堇)さんを起用しました。



Photo by Kazuma Iwano (Sol inc.)

II部(夜間部) ファッションショー

ショーテーマは「再誕祭」。夜間部有志学生たちによるファッションショー。テーマに沿って各学生が作品をデザイン・制作。ショーの演出、音効、照明、映像、モデルも学生が手がけました。



Photo by Kazuma Iwano (Sol inc.)

コラボレーション

産学連携によるコラボレーションは、文化服装学院の特色ある教育のひとつです。

企業との協働を通じて、学生たちは学内では得られない経験を重ね、次代のクリエイターとして成長しています。

JANSPORT×文化服装学院 「アップサイクルプロジェクト2025」

11月2日(日)～4日(火)の文化服装学院文化祭I部ファッションショー関連企画として、昨年に続き文化服装学院×ジャンSPORT「アップサイクルプロジェクト」を実施しました。廃棄予定だったJANSPORTのバックパックを使い、学生たちが独創的な洋服へとアップサイクルするプロジェクトで、選ばれた全10作品を文化祭I部ショーで披露。米国JANSPORT社のスタッフ、文化服装学院の相原学院長により最優秀賞が選抜されました。



第1位 三上 ゆいさん (アパレル技術科2年)
第2位 牧野 千秋さん (ファッション高度専門士科1年)
第3位 竹下 瑠美さん (アパレルデザイン科2年)

「RDC2025」にバーチャルファッションコース1期生が参加！

世界中からRobloxクリエイターが集まる完全招待制イベント「RDC2025」にバーチャルファッションコース1期生が参加しました。同コースは、2024年10月に「Roblox」と電通グループ、GeekOut社協力のもと、日本初のデジタルファッションプログラムを実施。2026年3月の卒業制作ファッションショーでは、「Roblox」上で制作したデジタルファッションをリアルな作品としても制作・再現し、ランウェイで披露しました。



RDC2025の様子

SHINDO×文化服装学院 特別コンテストシーン「21917193」

2025年で3回目の実施となる文化服装学院と世界的なファッションブランドを顧客に持つ服飾副資材のメーカー SHINDOとの産学連携。提供素材を最大限に活用した創造性あふれる作品が披露されました。審査はプレゼンテーション審査会とSNS人気投票の2部構成で実施され、11月13日(木)に学内で開催された審査発表会にて、服飾専攻科技術専攻の細田 優衣さんの作品が最優秀作品として選出されました。細田さんの作品は、2026年2月にフランス・パリで開催された世界最大級の服飾素材見本市「ブルミエール・ヴィジョン パリ」にて、SHINDOブース内で展示されました。さらに、副賞としてデザイナー本人がパリに招待され、世界のクリエイションの最前線を体感する機会が贈られました。



ファッション&アートスクールの 学生たちが手がけた「三越伊勢丹ミライアワード」

エントリー 21 作品の中から、厳正なる審査のうえ、ミライアワード大賞を添田 恵愛さん、リーバイス®賞を長南 拓見さん (いずれもファッション高度専門士科3年) が受賞しました!! ミライアワード大賞を受賞した添田さんは2025年9月、フランス・パリで発表されたステラ マッカートニー (STELLA McCARTNEY) の2026年サマーランウェイショーに、招待されました。



添田 恵愛さん
(文化服装学院 ファッション高度専門士科3年)
作品名: Damage

長南 拓見さん
(文化服装学院 ファッション高度専門士科3年)
作品名: Adaptive Urbanism

第25回YKKファスニングアワード



写真提供：YKK株式会社

アパレル部門・ファッショングッズ部門 グランプリ受賞

ファスニング商品を使用した学生対象のファッションデザインコンテスト、第25回「YKKファスニングアワード」のグランプリおよび各賞が発表されました。アパレル部門では、アパレルデザイン科3年 今野 奏さんがグランプリと、今回新設されたCircular Design 特別賞の二つの賞を受賞しました。ファッショングッズ部門では、シューズデザイン科2年 鳥居 遼太郎さんがグランプリに輝きました。



アパレル部門グランプリ

今野 奏さん
(アパレルデザイン科3年)

ファッショングッズ部門グランプリ

鳥居 遼太郎さん
(シューズデザイン科2年)

Hempel AWARD 2025

在校生が金賞とデザイン賞をW受賞

中国ファッションデザイナー協会とヘンペルインターナショナルグループが共催する、若手デザイナーへ向けた国際的コンテストで、国籍も地域も問わず参加が可能。自身のルーツを表現した独創的なクリエイションが審査員から高く評価され、アパレルデザイン科3年の西脇 駆さんがグランプリとデザイン賞のW受賞を果たしました。このコンテストでは、4年連続で当校学生が受賞を飾っています。



金賞&デザイン賞

西脇 駆さん
(アパレルデザイン科3年)



JFW NEW CREATOR AWARD

最優秀賞 & 優秀賞受賞

次世代の繊維、ファッション業界を担う人材育成プロジェクトとして、今年度から開催された新たなコンテスト「JFW NEW CREATOR AWARD」の最終審査結果が11月13日に発表されました。総応募数1,309点の中から、アパレルデザイン科3年 メンズデザインコースの榊原 叶真さんが最優秀賞を受賞し、ファッション高度専門士科3年の川上 琳太郎さんと、同じくファッション高度専門士科3年の中嶋 梨乃さんによる合同制作作品が優秀賞を受賞しました。優秀賞および最優秀賞作品は、2026年2月にパリで開催された“Première Vision”会場にて展示発表され、最優秀賞受賞者は同展示会に招待されました。



最優秀賞
榊原 叶真さん
(アパレルデザイン科3年
メンズデザインコース)
作品名: 痕跡



優秀賞
川上 琳太郎さん / 中嶋 梨乃さん
(ファッション高度専門士科3年)
作品名: 藍

Next Fashion Designer of Tokyo & Sustainable Fashion Design Award

東京都主催ファッションコンクールNFDTの大賞と優秀賞・特別選抜賞、SFDAの優秀賞を在校生が受賞!

東京都が主催する、学生を対象としたファッションコンクール「Next Fashion Designer of Tokyo」(NFDT)と、着物などを活用したファッションコンテスト「Sustainable Fashion Design Award」(SFDA)の最終審査がファッションショー形式で開催されました。Next Fashion Designer of Tokyo 2026の【インクルーシブデザイン部門】東京都知事賞・大賞をアパレルデザイン科3年のマックファーレン 七海さんが、東京都知事賞・優秀賞と特別選抜賞を服飾専攻科デザイン専攻の若林 唯さんが受賞。Sustainable Fashion Design Award 2026の【ウェア部門】東京都知事賞・優秀賞を服飾専攻科デザイン専攻の西崎 有那さんが受賞しました!

掲載画像: 東京都産業労働局提供



インクルーシブデザイン部門
東京都知事賞・大賞
マックファーレン 七海さん (アパレルデザイン科3年)
作品名: Unbalanced beauty



インクルーシブデザイン部門
東京都知事賞・優秀賞・特別選抜賞(W受賞)
若林 唯さん (服飾専攻科デザイン専攻)
作品名: コルセット×ドレス



ウェア部門
東京都知事賞・優秀賞
西崎 有那さん (服飾専攻科デザイン専攻)
作品名: REGENERATE

Rakuten Fashion Week TOKYO 2026 A/W

学生選抜コレクション 「individual 2026」

文化服装学院が未来のファッション界を担う才能を発掘し、国内外での活躍を後押しすることを目的とした学生選抜コレクション「individual」は、「Rakuten Fashion Week TOKYO 2026 A/W」関連イベントとして、2026年3月7日（土）、青山グランドホールにて開催されました。本年度の1次審査（ポートフォリオ）には、過去最多となる68組が応募。2026年1月21日（水）に行われた2次審査では、選ばれた20組が、ファッションジャーナリストやバイヤーなど50名を超える業界関係者に向けて直接プレゼンテーションを行いました。プロの厳しい視点による投票にて選抜された気鋭のデザイナー6組が、ランウェイショーとエキシビションを通じて自身のコレクションを披露しました。会場には、ファッションジャーナリストや主要メディア、バイヤーに加え、「KIDILL（キディル）」末安 弘明氏、文化服装学院卒業生である「sulvam（サルバム）」藤田 哲平氏、「YOUTH OF THE WATER（ユース・オブ・ザ・ウォーター）」上田 碧氏など、国内外で活躍するファッションデザイナーが来場。さらに、フォトグラファーの深谷 亘氏、服部 恭平氏、小松 康照氏など、ファッションシーンの最前線で活躍する業界関係者たちが一堂に会しました。ショー終了後に行われた来場者と学生デザイナーによる交流会では、第一線で活躍するプロフェッショナルと直接対話する貴重な場面が見られました。作品の独創的なコンセプトや技術的なこだわりに対して熱心な質疑応答が交わされ、学生たちにとっては単なる成果発表の場に留まらない、将来のキャリアへと直結するフィードバックを得る刺激に満ちた機会となりました。



ショー本番の様子



photo : Bunka Publishing Bureau



2次審査会の様子



「individual 2026」選抜学生デザイナー

将来のファッション界を担う、実力派学生デザイナーたちが最新コレクションを披露！次世代を担うデザイナーとして着実な歩みを進めています。

Deadbooy | DESIGNER 西脇 駆 Nishiwaki Kakeru

2004年生まれ。神奈川県出身。文化服装学院 アパレルデザイン科3年。

<https://www.instagram.com/iamdeadbooy>

在学中に自身のブランド「Deadbooy」を立ち上げ、「負の感情の再解釈」をテーマに、過去の傷や違和感を独自の表現へと昇華させる作品づくりを続けている。近年では、FUJI ROCK FESTIVAL 2025 における CA7RIEL & PACO AMOROSO のステージ衣装を担当したほか、Lex や XG などへの衣装提供も行い、活動の場をさらに広げている。

受賞歴：日暮里ファッションデザインコンテスト2024 東京商工会議所荒川支部会長賞／文化服装学院ファッションコンテスト2024 ファイナリスト／ナゴヤファッションコンテスト2025 ファイナリスト／台湾・台湾ファッションデザインアワード 2025 2位／中国・Hempel Award 2025 金賞 & デザイン賞／文化服装学院ファッションコンテスト 2025 グランプリ／第16回 N1 モードグランプリ 北海道知事賞 & 特別賞／ブランドローンチカリキュラム「FP Program」2025 Winner／(TRANOI TOKYO - 18 & 19 March 2026 招待出展)



KYOMA SAKAKIHARA | DESIGNER 榊原 叶真 Sakakihara Kyoma

2004年生まれ。広島県出身。文化服装学院 アパレルデザイン科3年メンズデザインコース。 https://www.instagram.com/kyo_sakaki

伝統的な衣服を再解釈し、エレガンスと斬新性を併せ持つスタイルを提案。日本の地域素材や持続可能性を取り入れたリアルなコレクションを展開する。素材背景を現代ファッションへと結び直し、テーラード技術とMDの視点を備えた、商品力のある継続展開可能なプロダクトを目指す。

受賞歴：2024年度文化服装学院院長賞／Next Fashion Designer of Tokyo 2026 フリー部門 一次審査通過／JFW NEW CREATOR AWARD 最優秀賞／(パリ／ブルミエール・ヴィジョン 出展 JFWO ブース招待出展)



Fleur Douces Philharm | DESIGNER 堀江 優花 Horie Yuuka

2006年生まれ。千葉県出身。文化服装学院 アパレルデザイン科2年。

<https://www.instagram.com/fleurdoucesphil>

強豪吹奏楽部での音楽経験を背景に、交響楽団を冠したブランドとして展開。楽章ごとに綴られる物語は、叙情性やディストピア的反骨心が共鳴する。最新章は「織と編」が溶け合う唯一無二の特殊加工を軸に、行き場のないウエディングドレスを解体、再構築。物語の登場人物の服を手取るような高揚感と共に、失われた純白に新たな旋律を宿す。

受賞歴：文化服装学院ファッションコンテスト2024 トリスト課題デザイン画選出／第99回 装苑賞 一次審査通過／文化服装学院ファッションコンテスト2025 佳作／Furmark Futures Young Students Design Competition 2026 アジアTop10 選出／第100回 装苑賞 一次審査通過／Next Fashion Designer of Tokyo 2026 フリー部門 ファイナリスト



HINAE KATSURA | DESIGNER 桂 日向映 Katsura Hinae

2003年生まれ。山口県出身。文化服装学院 ファッション高度専門士科4年。

https://www.instagram.com/hinaekatsura_official

HINAE KATSURAは、ドラマティック、ファンタジー、シュール、ガーリー、パンク、キチュ、ノスタルジックなど多様な要素が混ざり合う、唯一無二の世界観のブランドです。自由に楽しむドキドキとワクワクを届け、年齢を問わず「私もやってみよう」と踏み出せるきっかけになる服を提案しています。

受賞歴：文化服装学院ファッションコンテスト2023 佳作／第98回 装苑賞 ファイナリスト／文化服装学院文化祭ショー 2024 SHINDO 産学連携コンテスト グランプリ／(パリ／ブルミエール・ヴィジョン SHINDO ブース招待出展)／中国・Runhua Award 2025 銅賞 & 最優秀国際参加者賞／文化服装学院ファッションコンテスト2025 準グランプリ／文化服装学院ファッション画展 2025 グランプリ



OGURA TAKUMI | DESIGNER 小倉 拓海 Ogura Takumi

1997年生まれ。東京都出身。文化服装学院 アパレルデザイン科3年。

<https://www.instagram.com/ogura.takumi66>

デザイナー自身の経験やアート、カルチャー、歴史を踏まえた服作りを通して、装いの幅を広げていく。今期のテーマは「未来の花婿」。非日常を常識に変え、メンズの新しい装いの幅を広げることを目的に、服を通して、価値観の境界を柔らかに書き換えていくことを目指す。

受賞歴：ナゴヤファッションコンテスト2025 ファイナリスト／第25回 YKK ファスニングアワード ファイナリスト／JFW NEW CREATOR AWARD ファイナリスト／文化服装学院ファッションコンテスト2025 ファイナリスト／第100回 装苑賞 一次審査通過／Next Fashion Designer of Tokyo 2026 フリー部門 ファイナリスト



N.V.E.L | DESIGNER 青木 真那・木佐貫 綾乃・山本 奈々 Aoki Mana・Kisanuki Ayano・Yamamoto Nana

青木・2004年生まれ。神奈川県出身。文化服装学院 アパレルデザイン科3年。

木佐貫・1994年生まれ。鹿児島県出身。文化服装学院 アパレルデザイン科3年。

山本・2005年生まれ。千葉県出身。文化服装学院 アパレルデザイン科3年。

https://www.instagram.com/_n.v.e.l_

「クチュールを日常へ」。使い捨てが当たり前の時代に、簡単には手放せない服を届けるため、私たち3人はブランドを立ち上げた。日常に寄り添い、愛着を宿す長く着たくなる質とディテールを追求。シーズンテーマは「2026 Pantheon World Cup」。ギリシャ神話の神々がW杯で戦うユニフォームをデザインした。

受賞歴：Next Fashion Designer of Tokyo 2026 フリー部門 一次審査通過



会計報告

2025年度収支決算書

※2025年4月1日から2026年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

科 目	金 額
会費収入	11,611,000
事業収入	462,000
雑収入	127,204
寄付金収入	61,773
収入合計	12,261,977

支出の部

(単位:円)

科 目	金 額
会員証発行費	328,001
会報発行費	2,860,093
事業支出費	3,342,896
事務運営費	1,537,358
会議費	92,412
奨学金	2,900,000
雑費	1,430
予備費	100,000
支出合計	11,162,190
差引剰余金	1,099,787
総合計	12,261,977
前期繰越剰余金	79,451,601
当期剰余金	1,099,787
次期繰越金	80,551,388

2026年度すみれ会予算書案

※2026年4月1日から2027年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

科 目	2026年度予算
会費収入	10,060,000
	150,000
事業収入	450,000
雑収入	80,000
寄付金収入	50,000
剰余金繰入	600,000
収入合計	11,390,000

支出の部

(単位:円)

科 目	2026年度予算
会員証発行費	300,000
会報発行費	2,800,000
事業支出費	3,500,000
事務運営費	1,600,000
会議費	100,000
出張交通費	10,000
慶弔費	100,000
雑費	5,000
奨学金	1,400,000
	1,500,000
予備費	75,000
支出合計	11,390,000
収支差額	0

会員手続きについて

永久会員への更新、会員証の再発行、氏名・住所等の変更手続きは、文化服装学院すみれ会 Web サイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。

● 永久会員／会員証再発行／氏名・住所変更の手続き方法

- ① 「会員特典・手続き」→「会員手続き」申し込みフォームに必要事項をご記入ください。
- ② 永久会員への切り替え、会員証の再発行の場合は、お申込み時のメールアドレス宛に会員証発行のお支払先をご案内いたします。
- ③ 会員証発行費のお支払いが確認でき次第、ご登録の住所に会員証を郵送いたします。

● 会員限定 SNS ご登録のご案内

すみれ会では、会員限定 SNS を運営しています。

会員限定 SNS は、文化服装学院の卒業生だけが参加できるコミュニティです。登録された会員のみが閲覧できるため、安心して交流や情報交換を行うことができます。卒業後、それぞれの道で活躍する仲間たちと再びつながりませんか？

● すみれ会 SNS でできること

■ 住所変更などの会員情報の更新が簡単

引越したり転職などで連絡先が変わった場合も、マイページから簡単に登録情報を変更できます。

■ 卒業生同士で気軽につながる

クラスメイトとの再会はもちろん、学年や学科を超えた交流も可能です。近況報告や情報交換、仕事の相談など、卒業後の新たなつながりづくりにご活用いただけます。

■ すみれ会や母校の最新情報をチェック

同窓会イベントや文化服装学院のニュース、卒業生の活躍など、さまざまな情報をいち早くご覧いただけます。

卒業後も続く「文化のつながり」の場として、ぜひ会員限定 SNS をご活用ください。皆さまのご登録をお待ちしております。

● 会員限定 SNS の登録について

会員限定 SNS への登録をご希望の方は、すみれ会ホームページよりお申し込みください。

お申し込み後、ご登録いただいたメールアドレス宛に招待メールをお送りいたします。

招待メールが届きましたら、以下の手順で登録を行ってください。

- ① 件名「『文化服装学院 すみれ会』への招待が届いています」のメールが届きますので、メール内の [登録する] をクリックまたはタップしてください。※招待時にメールアドレスおよび氏名は登録済みです。
- ② アカウント作成画面が表示されますので、パスワードを設定してください。確認のため、同じパスワードを2回入力します。※パスワードは8文字以上で設定してください。
- ③ 入力後、[完了] をクリックまたはタップすると登録完了です。

Follow Us!

● 公式 Instagram のご案内

すみれ会では、公式 Instagram で卒業生の活躍情報や、すみれ会の活動を発信しています。

国内外で活躍する卒業生のニュースや作品紹介、ブランド情報のほか、

総会や同窓会パーティなどの情報も随時お届けしています。

母校や同窓生の「今」を知ることができる情報発信の場として、ぜひご活用ください。

また、卒業生の皆さまの活躍情報も募集しております。ご自身の活動やブランド、作品発表、受賞など、

ぜひお気軽にお知らせください。これからも、卒業生同士のつながりを深め、

母校との絆を育む情報発信に努めてまいります。ぜひフォローをお願いいたします。

● 文化服装学院すみれ会 公式 Instagram



bunka_sumire_kai

文化服装学院同窓会
(すみれ会)

皆さまの「フォロー」や「いいね!」が、卒業生ネットワークのさらなる活性化につながります。

● 会員手続き、会員特典、すみれ会 SNS に関する問い合わせ先

永久会員への申請、会員証の再発行、氏名・住所等の変更手続きは、文化服装学院すみれ会 Web サイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。Web での各種手続きが難しい方はすみれ会事務局までご連絡ください。

文化服装学院すみれ会事務局

〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL : 03-3299-2073

受付時間 : 9 : 00 ~ 17 : 00

すみれ会会員特典

すみれ会では会員特典をご用意しております。
ご利用にあたっては「すみれ会会員証」をご提示ください。
※特典情報は随時更新しております。最新情報はホームページをご覧ください。

特典① 文化学園施設利用

文化学園図書館

※すみれ会会員証のご提示で、ご利用いただけます。開館スケジュールについては、文化学園図書館ホームページ掲載の「図書館カレンダー（卒業生用）」をご確認ください。
ホームページ: <https://lib.bunka.ac.jp/>
〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL:03-3299-2395

文化学園服飾博物館

※すみれ会会員証のご提示で、無料にて鑑賞いただけます。展示期間、開館スケジュール等は文化学園服飾博物館のホームページをご確認ください。
〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7
新宿文化クイントビル1階
ホームページ: <https://museum.bunka.ac.jp/>
TEL:03-3299-2387

文化学園ファッションリソースセンター

※テキスタイル資料室、映像資料室がご利用いただけます。開室スケジュール等は文化学園ファッションリソースセンターのホームページをご確認ください。
ホームページ: <https://www.bunka.ac.jp/frc/>
〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1
文化学園遠藤記念館 地下1階

特典② 文化学園事業利用の優待

文化購買事業部

GAKUEN SHOP(表生地・手芸用品コーナー・書籍コーナーは除く)商品を10%OFFでご購入いただけます。※一部対象外がございます。
ホームページ: <https://www.bunka-koubai.com/>
文化学園遠藤記念館(F館)1階・プラザ棟1階
TEL:03-3299-2034

文化出版局 雑誌定期購読

※雑誌『装苑』『ミセスのスタイルブック』の購読を10%OFFにてお申込みいただけます。
下記ホームページまたはお電話よりお申込みください。

○特別割引購読の申込 富士山マガジンサービス

ホームページ: <https://www.fujisan.co.jp/campaign/bunka/>
クーポンコード: sumire2026
※クーポンコードがないと特別割引は適用されません。
フリーダイヤル:0120-223-223

文化服装学院生涯学習

文化服装学院の充実した施設と設備を利用しながら学べるオープンカレッジと通信教育講座。ブラッシュアップにも役立つBUNKAファッション・オープンカレッジの入会金を半額にてお申込みいただけます。
TEL:03-3299-2233
ホームページ: <http://lifelong.bunka-fc.ac.jp/>

特典③ 協力企業によるサービス

日本旅行

日本旅行の全国支店店頭にてお申込されると、パッケージツアーを5%OFFでご利用いただけます。窓口にてすみれ会会員証をご提示ください。(Web、電話でのお申込みは対象外)
国内/赤い風船 海外/マッハ、ベスト
※他社企画、Webコレクション等、上記ブランド以外は対象外です。
※旧日本旅行OMCトラベルは除外となります。
※本人とそのご家族が対象です。 ※その他各種割引との重複利用はできません。

● 会員特典にご協力いただける企業、お店を募集しています

会員証の提示で割引が可能になる、特典をつけてくださるなど、卒業生の皆さまのご好意をお待ちしております。

問い合わせ先:すみれ会事務局 TEL:03-3299-2073



文化服装学院すみれ会Webサイト

<https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp/>

紙の会報への感謝と、新たな一歩

会員の皆さまへ —— 平素より、文化服装学院すみれ会の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。すみれ会報は、会員の皆さまと母校をつなぐ情報誌として長年発行を続けてまいりましたが、本号(第66号)をもちまして紙媒体での発行を終了することとなりました。これまで長きにわたりご愛読いただきました会員の皆さま、また取材や原稿執筆などにご協力いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。近年、情報発信を取り巻く環境は大きく変化しております。こうした変化に対応し、より迅速かつ充実した情報をお届けするため、すみれ会報は2027年度より電子版へ移行いたします。今後は公式Instagramやホームページも活用しながら、母校の情報をよりタイムリーにお届けしてまいります。紙媒体による会報は本号が最後となりますが、会員同士のつながりを育み、母校との絆を深めるというすみれ会の使命はこれからも変わりません。今後も皆さまとともに歩み続ける同窓会でありたいと願っております。引き続き、すみれ会への変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。 —— 文化服装学院すみれ会

役員紹介



すみれ会会長
佐藤織維株式会社
代表取締役
佐藤 正樹氏



すみれ会名誉会長
文化服装学院
学院長
相原 幸子氏



すみれ会副会長
株式会社オールファッション
アート研究所 代表取締役
松本 ルキ氏



すみれ会副会長
株式会社ヒロコシン
代表取締役副社長
小篠 ゆま氏



すみれ会副会長
楽天グループ株式会社
プラットフォーム戦略統括部
新井 正樹氏



すみれ会副会長
文化服装学院
副学院長
朴澤 明子氏



スーパーバイザー
株式会社サーヴォ
グレーダー
花里 裕氏



NEWSLETTER OF SUMIRE-KAI

